

2. 乳がんインタビュー08

外来の看護師がこちらの気持ちをわかって声をかけてくれたのが有難かった

<テキスト>

外科のほうの看護師さんが、本当に、あの一、よくこちらの気持ちの分かってくださる看護師さんで。で、診察が隣同士ですから、私が遠くから通ってるっていうのも分かってくださって、その大腸がんの診察の日に、「じゃあ、乳腺のほうも今日診てもらおう？」っていう感じで入れてくれたりしたんですね。やっぱり私が行ったり来たりするのがすごく大変っていうのが分かっててくれて、そういうふうに、気を回して、「じゃ、今日、乳腺のほう、あの一、入れられそうだから、入れとくわ」みたいな形で言ってくれてね。入れてくれたりとか。

それから、あの一、やっぱり点滴の抗がん剤の治療のときに、やっぱり私が終わってから電車で帰ってるっていうのを、まあ、2時間近くかかって、あの一、看護師さん、みんな知って、「しんどかったら、横のベッドで、寝て帰ってもいいのよ」って言って。で、あの一、「ご主人、迎えに来てくださるまで、病院で休んで帰ってもいいから」って言ってくださったりとかしたんですね。うん。だから、やっぱそういうのがありがたかったなと思って。はい。

何かすごく、やっぱり遠いっていうことを知ってくださってね、あの一、そういう配慮をいろいろ…「いろいろあるから言ってね」っていうふうに向こうから言ってくださって。で、「別にそれはわがままじゃないからね」ってちょっとね、あの一、私に気を遣わせないようにね、そういうふうに言ってくださるって、とてもありがたかったです。